

多職種連携・協働から見えてきたもの ～NPO法人一步一步～

潮 礼佳、菅野央倫、飯吉裕樹、
高橋瑞穂、増原玄洋、陽 真哉、安田 清

NPO法人 一步一步 事業・組織概要①



2014年4月22日設立

理事5名（理事長含む）

会員20名超えの非営利団体。

設立の目的

高齢社会において、住みやすい社会となるように、医療・介護・福祉の垣根を越えてその人の「課題解決」のサポートをすることを目的に設立。



手をつなごう！手をつなごう！ 手をつないだときのほうが 力がわいてくるよ

「てをつなごう」榎原敬之

糖尿病療養指導士 薬剤師

歯科医師 看護師

副住職



福祉住環境
コーディネーター

理事長

理学療法士

晴居宅介護支援事業所代表
言語聴覚士
認知症ケア専門士

看護師 寺小屋カフェスタッフ 介護支援専門員

…他、多数

NPO法人 一步一步 事業・組織概要②

多職種・多機関との連携構築に関する取り組みの紹介

(A) 専門職向け勉強会 /交流会

地域包括ケア構築や推進に関する取り組み・報告の紹介

(B) 地域住民向け 情報提供の場

地域リハビリテーションに関する活動の紹介

(C) 法人独自サービス

(C1) 認知症・もの忘れ
に関する支援

(C2) 医療・介護・福祉

(C3) スポーツ



2017年より
千葉圏域地域リハ・パートナー参加



(A) 専門職向け勉強/交流会

医療、介護、福祉を中心とした職種向けに、2カ月に1度開催

2014年9月～2019年1月まで全24回開催



テーマ	発表者
「QOLからQODの時代へ」	NPO法人 一歩一歩 理事長
「QODについて ～医師の立場から～」	医師
「各種ツール、ITを活用した認知症の方の支援」	言語聴覚士
「地域支援としての試み 認知症カフェの紹介」	主任 介護支援専門員
「いち介護員が立ち上げた事業所の取り組みとその軌跡」	宅老所・ デイサービス代表
「職員のモチベーション維持と接遇」	看護師
「米国で学んだ在宅医療と日本の訪問看護の現状」	訪問看護 ステーション 代表
「性同一性障害の理解に富んだ社会を目指して」	NPO法人 代表
「コンビニと高齢者 一応対したときのトラブル事例ー」	コンビニ エンスストア店長
「マインドマップを用いた困難事例の解決について」	見える事例検討会 ®公認 ファシリテーター

(A)勉強会の一例

テーマ：「在宅介護の課題解決における住宅改修の有効性」

講師：株式会社ケアリフォーム（福祉住環境コーディネーター）

受講者：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員、看護師、介護福祉士、認知症ケア専門士、他多数

課題は本人が認識しているものも、認識していないものもある。

仕事は「課題」から「解決」への『提案』

内容

- ・ 住宅改修で解決できることと解決例
- ・ 介護保険や助成金の活用
- ・ 退院前指導のポイント
- ・ 失敗例 等

【課題】

出来ない
危険
不安
不便
不自由

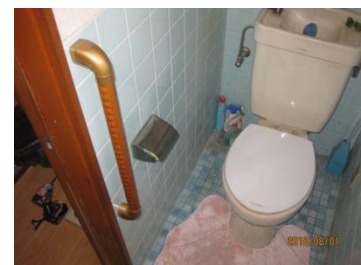
【解決】

出来る
安全
安心
便利
楽

【課題】



【解決】



ユーザーニーズはユーザーにも判らない (by.スティーブジョブズ)

(B)地域住民向け情報提供の場

地域住民へ向け

毎年様々なテーマで講師を招き開催



開催年	テーマ/開催場所
2015年 第1回	「10年後の私のために」 ～今からできること～ リハビリテーションの立場から 場所：千葉市きぼーる
2016年 第2回	『地域包括ケアシステムに向けて(在宅医療)』 場所：蘇我コミュニティセンター多目的ホール
2017年 第3回	地域包括ケアシステムに向けて ～地域を守る様々な取り組み～ 場所：蘇我コミュニティセンター多目的ホール
2018年 第4回	『健康寿命を伸ばすために』 場所：内田医院・ファーコス薬局だいた



(C1) 一步一步独自サービス

認知症・もの忘れに関する支援(言語聴覚士・ボランティア)

便利グッズを活用し、その時に向けて
『自分でできることから備えよう』をテーマに運営。

①テレビ電話支援会

(共催: 京都工芸繊維大学)

MCI(軽度認知障害)の方あるいは認知症の方と
話相手ボランティアがテレビ電話で話をする

②もの忘れ対処法を学ぶ会

(共催: おゆみの中央病院)

高齢者やシニアリーダーに対して、便利グッズ活用方法を
紹介。認知症やもの忘れ対処法を学ぶ。

③もの忘れ、認知症寄りあいサロン

次回は
2019年3月9日(土)
10:00～開催



もの忘れ対処法を学ぶ会



カフェ・もの忘れ

(C2)一歩一歩独自サービス

リハビリテーションによる課題解決(理学療法士)



いつ？

- 1カ月に1～2度
- 依頼に応じて

どこで？

- 特別養護老人ホーム
- 障害者施設
- グループホーム
- デイサービス



仕事内容は？

- 入所者の生活状況の把握
- 生活機能改善の助言
- 職員研修・新人職員育成



メリットはどんなことがあるの？

ボイスチェンジを利用することで、意見は伝わりやすくなる。

施設責任者、介護、医療職員、利用者、家族の相談を受けることもある。





まとめ/気づき

(A) 専門職向け勉強会/交流会

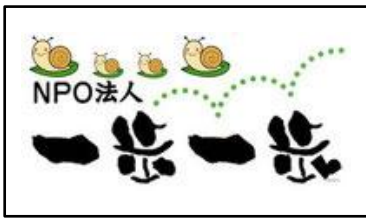
- 向上心を持った仲間が集結し、相談できる仲間が増え、共に学び、気づき、現場（臨床）での工夫を見つけれられる場となってきた。
- 多職種・多機関と関わることで、自分の職域、他者の職域を知り、社会資源を知ることで、課題解決の手段が増加した。

(B) 地域住民向け情報提供の場

- 地域に暮らす高齢者の不安や悩みを直接聴くことができ、地域活動の意義を確認することができた。
- 専門職が自ら地域に出向き、住民に寄り添いながら、旬な情報を提供して、一緒に笑顔になれる学びの場作りが求められていることがわかった。

(C) 法人独自サービス

- 施設やスタッフ、患者・利用者・その家族にとってのプラスが必要。（付加価値）
- 多職種の垣根を越えて、協働して課題解決に向かって、ともに歩むことの大切さを共有できた。



今後の活動について

(A) 専門職向け勉強会/交流会

共に学び、スキルアップしていく専門職の仲間を増やして、さらなる活動の拡大を目指す。

(B) 地域住民向け情報提供の場

情報提供の場に留らず、共に学ぶ場を企画していく。

(C) 法人独自サービス

地域リハビリテーション活動を通して、多くの方に法人の活動を周知し、当法人を必要とする人を増やしていく。
また、多くの方の悩みを解決に導く“きっかけ”となるようサポートしていく。